

「漢籍」講演会

本講演会は、三重大学の学生・教職員はもとより、地域のみなさまのご参加を歓迎いたします。奮ってご参加ください。

2024年12月5日（木） 13:00開始

13:00 開会

ご挨拶

人文学部長 豊福 裕二

特別講演①

日本における漢籍の歴史

放送大学鹿児島学習センター所長・鹿児島大学名誉教授 高津 孝

日本では遣唐使以来、漢籍の輸入に努めてきたが、江戸時代には貿易を通じてさらに多くの書物が舶載されて来た。近代以降になると中国の衰退、日本の興隆と共に、より多くの漢籍が日本に流入した。しかし、近年、日本の古書市場では中国人が漢籍を買い戻す光景が見られる。日中間の国力の逆転と共に、日本所蔵の漢籍も祖国に帰る動きが顕著になってきた。今までは漢籍が日本に流入する一方であったのに、逆の動きが起き始めているという、現在がこのような大きな転換点であるということ念頭に置いて日本人がどのように漢籍を受け入れてきたかを略述したい。

特別講演②

三重大学所蔵の漢籍紹介

三重大学人文学部准教授 白石 将人

三重大学は津藩の藩校である有造館の漢籍蔵書の一部を受け継いでいる。詳細は三重大学に以前在籍していた道坂昭廣、井上進の両先生によって調査され、井上先生の努力で目録が作成されている。有造館の督学であった斎藤拙堂は有名な文人であるが、その遺書は近年、御遺族の手により石水博物館に収められ、公開されるようになった。このように拙堂、そして有造館にまた光の当たる状況の中、津の漢籍蔵書の系譜を引く三重大学附属図書館所蔵の漢籍のうちで、注目に値する書物をいくつか紹介したい。

14:30 閉会

日時

2024年 12月 5日（木） 13:00~14:30

場所

三重大学講堂（三翠ホール）小ホール

対象

- ・ 地域のみなさま
- ・ 三重大学の学生・教職員
- ・ 専門科目「中国語学特論」履修者

主催：三重大学人文学部 三重の文化と社会研究センター